

## 朝の礼拝

聖書 ルカによる福音書 10章38-42節 (新約聖書127頁)

一行が歩いて行くうち、イエスはある村にお入りになった。すると、マルタという女が、イエスを家に迎え入れた。彼女にはマリアという姉妹がいた。マリアは主の足もとに座って、その話に聞き入っていた。マルタは、いろいろのもてなしのためせわしく立ち働いていたが、そばに近寄って言った。「主よ、わたしの姉妹はわたしだけにもてなしをさせていますが、何ともお思いになりませんか。手伝ってくれるようにおっしゃってください。」主はお答えになった。「マルタ、マルタ、あなたは多くのことに思い悩み、心を乱している。しかし、必要なことはただ一つだけである。マリアは良い方を選んだ。それを取り上げてはならない。」

## 自由

イエスの死後、初めての教会、聖堂ができたのは四世紀に入ってからです。それまで教会は「家の教会」でした。彼らはユダヤ教やローマ帝国から迫害を受けても、財産を共有して貧しい子ども、やもめの世話をしました。イエスが共にいると信じ、祈り、支え合っていたからです。

冒頭のマルタとマリアの姉妹、話を聴いていたマリアが評価され、もてなしていたマルタが低く評価されていると比較する人も多いかもしれませんが。しかし当時、そもそも女性だけで男性を家に迎えてもてなすこと自体、考えられないことでした。

さらにマリアが「主の足もとに座って、その話に聞き入っていた」、マルタも「せわしく立ち働いていた」とありますが、原文ではどちらも誰に言われ命じられたのではなく自ら進んで行動したという意味だとわかります。女性の主体性を認めるこの記述も考えられないことでした。

それから約三百年、四世紀、キリスト教は国教となりました。しかし教会はイエスの言葉を聞くのは男性の聖職者で、お年寄りや子どもの世話をするのは主に女性と分業にしました。イエスが男女に関係なく誰もが御言葉を聴き、仕える自由を伝えたのに忘れてしまったのでしょうか。

(しばらく黙祷しましょう)

慈しみ深い主よ。私たちはあなたの足もとに座って、あなたの言葉に耳を傾ける時、真の慰めと励ましに与ることができます。どうか私たちが互いに愛し合い、自由に学び、学び合う喜びへと導いてください。今日は試験があります。試験は一つの結果ですが、どうか学び続ける励みとし、日々の学ぶ力につなげてください。今日一日もすべてをあなたに委ね、喜びと感謝のうちに過ごさせてください。主イエス・キリストによってお願いいたします。アーメン